

地域での子育て
支援が、分かり
やすいこと

●子育てのマイナスイメージをプラスにするためには！

- ・姉が沖縄にいて結婚したが、本人は子育てが苦手そうなタイプだったのに、周りの子育ての雰囲気の影響されたのか、さっそうと出産した。
- ・沖縄は、全国で一番出生率が高い。一方で、所得は高くない。それでも、子どもを多く産む環境がある。
- ・研修で行った植木町の「ばあちゃんち」みたいなものがあると、子育ての楽しさや安心感につながる。
- ・子育て支援センターやママ友サークルなど、近くに頼れる人がいるのが分かれると安心につながる。
- ・近所で子育てを支えてくれる人とつながりを持つこと。
- ・そのためには、地域の人と知り合う関係や知り合えるきっかけづくりも大事。
- ・農村部でも近所との関係が薄かったり、逆に都市部でも近所と関係の深いところがある。それぞれの状況にあった関係づくりが必要。

子育ての楽しさ
の前提として、赤
ちゃんや子ども
と接すること

●実際に子どもと接すること！

- ・実際に赤ちゃんを抱っこしたりしてみると、そのぬくもりや動きを体感できる。人形やビデオではできない経験になる。
- ・高齢者施設訪問のボランティアや体験学習のように、小さな子どもとのふれあいが必要。
- ・「子どもが欲しいとか欲しくない、結婚したいとかしたくない」、などの考えが固まる小・中学生のころから体験しておく、自然に子どもを欲しいと思うことにつながっていく。
- ・「赤ちゃん抱っこ体験」ではなく、ネーミングには工夫が必要。

子育ての楽しさ
が当たり前のよ
うに感じられる
こと

●子育てしやすさと楽しさが当たり前の社会に！

- ・子育てしやすい環境づくりが一番。
- ・そのひとつとして、大型店舗にあるような、赤ちゃん用トイレや、オムツ替えのコーナーが、地域のお店などにも当たり前にあること。
- ・「子育て応援のお店」などが、もっと知られ、広がっていくといい。
- ・たとえば、子ども優先市電（子ども連れだと料金が安くなったり、子どもが電車の中で気兼ねなく遊べる）など子どもを大事にする取り組み。

- ・社会全体で「子育ては楽しい」、「子育てを応援している」を広げて、子育てが特別なことでなく当たり前のことにしていく。
- ・そのためには、すぐに目に付くところに「子育ては楽しい」をアピールする。たとえば、一番目に付くコンビニのレジ周辺などを活用する。「子育て支援」、「子育ては楽しい！」をいろんなところで感じられるようにしていく。

